

時間のない世界

院長 長山 直弘



私たちの住んでいる宇宙は137億年前のビッグバンによって成長したといえます。ビッグバン以降今の空間と時間は生じました。それ以前の宇宙はどのようなものだったのでしょうか。時間がない世界だったのか、今の時間とは全く異なる不思議な時間の世界だったのか？時間のない(あるいは不思議な時間の)世界から時間のある世界が生じることがあるのなら、時間のある世界から時間のない(あるいは不思議な時間の)世界が生じたり、時間のある世界が時間のない世界とつながったりする可能性もあるのではないのでしょうか。もしそのようなことが可能とすればそれは宇宙のどこで起こるのでしょうか？

宇宙は大きいエネルギーとして誕生以来、素粒子を作り、軽い元素を作り、分子を作り、星を作り、重い元素を作り、化合物を作り、ついに単細胞生物を生じさせ、更に様々な生命体を生じさせてきました。これを宇宙の進化と呼びます。そして感情や知性を持つ人間を作りました。宇宙には人間のような知的生命体が夥しく居たし、居るだろうと推測されています。宇宙が時間のない世界と相互作用することがあるとすれば、それは宇宙の中でも認識という機能を持つ知的生命体においてであろうと私は思います。

時間のある世界から時間のない世界へ何かが移行するとしたら、或いは時間のある世界から時間のない世界が生じるとしたら、それはとても容易ではない過程であろうと予想されます。死は知的生命体にとって容易ではない過程であり、同時に時間のない世界への移行があり得る状況だと思えます。例えば知的生命体で発生している無数に思える電気的雙極子の流れのうちのあるパターンに時間のない世界と間接的に相互作用するような何かがあるのではないかと私は考えています。

世界では毎年1億人の死亡があり、多くの看取りと追悼が行われています。そうした行為・経験の中から、既存の学問(数学を基礎にしている全ての自然科学や言葉を基礎に思考する人文科学)では探求され得ない領域へのアプローチの方法が発見される筈だと私は思うのです。病と老に苦しんでいる人やそれを支える家族、および医療従事者の心を見ていると、そのような時代が来るという気がしてくるのです。